

募 集 要 項

氏 名：古村公久	研究室：4K308
専攻分野：企業社会論、非営利組織論	
演習テーマ：CSR、ソーシャル・イノベーション	E-mail：komura@cc.kyoto-su.ac.jp

演習内容・主なテキスト

本演習では、「良い企業・良い組織とは何か」という基本的な問いをベースに、様々な視点で現代的課題を考えていく。テキストは必要に応じて随時指示する。

後述するように、当ゼミは学生の自主性に全面的に依存するので、内容はメンバーの創意工夫により大きく変わるが、ここ数年はビジネスプランの構想を練る中でスキルアップを目指す活動が続いている。一つの参考例を以下で示しておく。

<演習1・2>

演習 1 では、文献を輪読しながら経営学の基礎を修得する（年度によっては、マクロ経済の視点から日本の状況を考えたり、会計の基礎修得にあてたり、精神論を議論したりしたこと等もある）。原則、毎回全員（全グループ）がレジュメを作成し、要約や問題提起等を発表したうえで全員で議論する。続く演習 2 では、各自の問題意識から課題を発掘し、それを解決するビジネスプランを実際に作成する作業の中で、マネジメントについて学習する。原則、担当者（担当グループ）がビジネスプランのプレゼンを行い、それに対する質疑応答やディスカッションを全員で行う中で、理解を深めていくという形式をとる。

<演習3・4>

演習 3・4 では、2 年次の学習進捗度を勘案し、不足するようであれば引き続き文献輪読を中心とした地道な作業を行っていくが、一定水準に達していると判断できれば企業とのダイアログや PBL・ビジネスプランコンテストへの応募・社会貢献活動への参加等、学習してきた成果をフィールドで発揮してもらう機会を設ける。また、方法論を中心に卒業論文作成へ向けた準備も始める。

<演習5・6>

演習 5・6 では、2 年間考えてきたことをもとに各々の問題意識から研究テーマを設定し、そのテーマに関する研究・発表・討論を通じて卒業論文を作成する。

教員からの要望(自己紹介含む)

地味で地道なゼミを目指します。「楽しいパッケージ」を期待する学生には「面倒くさい、まじめなゼミ」です。学生の特権は、生活を守るための収入を心配することなく、ただただ悩み続けたり失敗したりすることができる場所にあると思っています。何もない、先が見えない状況で、自己責任で目標を設定し、どのように価値あるものを創りあげていくのか、試行錯誤を繰り返してもらいます。卒業する時になっても明確な答えは出ていないかもしれません。個人的にはその経験こそ重要だと考えています。

したがって、当ゼミは年度ごとに全くスタイルが変わる可能性がありますし、ゼミの質は学生皆さんの努力次第で大きく変わります。どんなことに対しても「何かを吸収してやろう」という姿勢をもち、受け身ではなく自主的にゼミを創りあげるという自覚をもって臨んで下さい。ゼミ生が自ら考え自主的に行うことに対しては、担当教員として最大限のサポートをします。また、これからビジネスの世界へ飛び込んでいく学生が多いと思いますので、現場で培ってきた私の経験やノウハウなども惜しまず提供するつもりでいます。

なお、ゼミの時間だけでなく、自主的なグループワークの時間も毎週確保することが必要です。ゼミを無断欠席する者は論外ですが、(正当な理由のない)遅刻や不真面目な態度等も大幅に減点していきますので、ゼミ活動を最優先できる学生のみ応募して下さい。

履修希望科目

経営学の基礎に関わる科目は履修しておくことが望ましい。